

### Contents

## 第5回 日本大学オンライン授業に関するシンポジウム 「オンライン授業のミライのカたち」を探る

<b>第1部</b>	<b>令和2年度日本大学 学生 FD CHAmmit の報告 未来の大學生へ～オンライン授業のミライのカたち～</b>	2
	報告1 オンライン授業のメリット・デメリット	
	報告2 オンライン授業のミライのカたち	
<b>第2部</b>	<b>オンライン授業改善に向けたパネルディスカッション CHAmmit 学生スタッフと教員がミライの授業を語り合う</b>	3
1	学系別ディスカッション (文系グループ, 理系グループ, 医歯薬系グループ)	
2	(文系・理系・医歯薬系)ミライに向けた全体ディスカッション	4

### COVER PHOTO

第5回のシンポジウムでは、学生スタッフによる学生FD CHAmmit の報告や5人の学生と3人の教員が登壇し、日本大学 学生 FD CHAmmit で出された課題を基にして、これからのオンライン授業がどうあるべきかを話し合った。

# 第5回 日本大学オンライン授業に関するシンポジウム 「オンライン授業のミライのカタチ」を探る

令和2年12月19日、「第5回 日本大学オンライン授業に関するシンポジウム」が実施され、学生・教職員合わせて約400人の方々に参加いただきました。第1部では、学生FD CHAmmiTの報告があり、第2部では、今後のオンライン授業はどうあるべきか、学生と教員が意見交換を行いました。

## 第1部

### 令和2年度日本大学 学生FD CHAmmiTの報告

## 未来の大學生へ～オンライン授業のミライのカタチ～

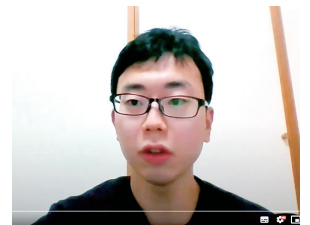
### 学生視点でオンライン授業の課題を語り合った CHAmmiTと、学部による学生FD活動

文理学部 哲学科 3年 青砥光希さん

今回で8回目となる学生FD CHAmmiTは、コロナ禍のため開催が危ぶまれましたが、学生スタッフの熱意が通じ、オンラインで開催。学生スタッフ代表の青砥光希さんは、「恒例のしゃべり場では、オンライン授業の改善点を話し合い、学部ごとに提案書を作成した」と説明しました。

また、青砥さんは、自身が所属する文理学部の学生FD活動に触れ、令和2年度は学部長の呼びかけを受け、学部長

ら教員と授業改善や遠隔授業の問題点などについての意見交換を実施したと報告。「これがきっかけとなり、私が授業に臨む意識が変わりました」と述べました。



青砥さんは、今後の学生FD活動の課題について「各学部へのさらなる広がり」「活動内容の評価と可視化」「継続的な推進」になると説明。最後に「学生FD活動の発展には、学生の努力だけでなく教職員の協力が必要」と述べ、学生主体の学びの実現に向けての抱負を語りました。

### 報告 1 オンライン授業のメリット・デメリット

#### オンラインでの事前学修を前提とした対面授業を



商学部 3年  
竹田 匠さん

通信教育部 4年  
吉田未来さん

経済学部 3年  
落合凌也さん

CHAmmiTで挙げたオンライン授業のメリット・デメリットを報告。「オンラインでは実験の授業の質が落ちる」という理系特有のデメリットもありましたが、各学部の意見はほぼ同じという結果に。「事前学修はオンラインで行い、その内容を理解している前提で対面授業を行う、新しい授業の形が期待できるのでは？」という提案がありました。

#### メリット

- ◎時間や場所の制限がない。
- ◎自由な時間が増える。
- ◎繰り返して視聴することができる。
- ◎交通費や昼食代が浮く。
- ◎ペーパーレス化した。

#### デメリット

- ◎教員のITスキルに差がある。
- ◎友達と会えない。
- ◎評価や提出方法がバラバラ。
- ◎学校施設が利用できない。
- ◎モチベーションが維持できない。

### 報告 2 オンライン授業のミライのカタチ

#### オンデマンドなら時間割を超えた履修も可能



経済学部 3年  
大貫陽司さん

国際関係学部 2年  
小林歩武さん

国際関係学部 1年  
竹田蘭丸さん

報告2では、学生スタッフ3人が、報告1で挙げたデメリットを解消し、オンライン授業の質向上を図るための提案を行いました。それは、①授業の質を均一化するための教員向けオンライン授業のガイドライン作成や教員間での情報交換会の実施、②オンライン授業用の課題提出方法、③評価基準などを明記したシラバスの作成の3点です。

また、外部講師を招請した授業や、他学部の授業の履修など、オンラインの良さを生かした授業を展開することで、大学全体の学びの質が上がるのではないかと提言。さらに、今までは時間割が重複すると履修を諦めざるを得ませんでしたが、オンデマンドであれば自由に履修できるため、時間割の枠組みを超えた学びの可能性が論じられました。

## 第2部

## オンライン授業改善に向けたパネルディスカッション

## CHAmmiT 学生スタッフと教員がミライの授業を語り合う

第2部の前半では、3つの学系別に CHAmmiT 学生スタッフと教員が集まり、第1部で挙げたオンライン授業の課題を洗い出し、どのような改善が必要か議論しました。後半は、松戸歯学部 平山聡司教授のファシリテーションにより、学系別ディスカッションに参加した教員と学生が、本学全体としてミライのオンライン授業がどうあるべきか、意見交換をしました。

## 1 学系別ディスカッション (文系グループ、理系グループ、医歯薬系グループ)

## 文系

芸術学部  
芸術教養課程  
准教授  
吉野大輔



法学部 3年  
渡邊菜月さん  
商学部 3年  
古家凌成さん

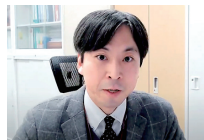
芸術学部の吉野大輔准教授は、オンライン授業は「いつでも」「どこでも」「繰り返し」「自分に合ったペース」の学修が可能になるとし、特に講義や語学学修にはポジティブな学修効果があったと説明。法学部の渡邊菜月さんは「9割の講義に満足できた」と述べました。一方で、CHAmmiTに参加した1年生から「一度も大学に行っていない。他の学生と交流ができていない」と聞き、特に低学年の学生向けに、「大

学として交流の場をつくれなにか」と提案しました。

商学部の古家凌成さんは「定期的な評価」と「質問の受け付け方法の明示」を要望。それらを受け吉野准教授は、「オンライン授業の実施によって学生・教員双方の時間的・身体的負担を軽減でき、その分、対面授業の質を高められる可能性がある。オンライン授業のルールを来年度に向けて整備することが重要だ」と締めくくりました。

## 理系

理工学部  
土木工学科  
准教授  
長谷部 寛



生産工学部 3年  
梅村智輝さん

理工学部の長谷部 寛准教授は、オンラインの授業がどうすればうまくいくか試行錯誤した状況を語りました。特に、「プロジェクトスタディ～橋梁設計～」は、グループで橋梁模型を制作する科目で、「大学での実習はできないと判断し、自宅で橋梁模型を制作する課題にした」と説明しました。

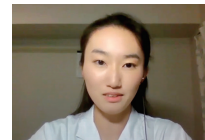
生産工学部の梅村智輝さんは、数理情報工学科所属のためそうした授業はなく、オンライン授業でのメリットを多く感

じていると述べました。特にオンデマンド授業では「演習課題が設定時間よりも早く解けた場合は、授業の復習や予習の時間に充てられるため効率的に勉強ができる」と話しました。

一方で、梅村さんは、「就職に関する情報を教員や友人から得られない」と不安を吐露しました。長谷部准教授は、「オンラインで卒業生と話す機会を充実させるなど、キャリア教育にも力を入れていきたい」と展望を述べました。

## 医歯薬系

歯学部  
歯学科  
准教授  
松本邦史



松戸歯学部 3年  
伊藤暢祐さん  
薬学部 3年  
鈴木杏奈さん

医歯薬系の学生からは、知識の修得にはオンライン授業は好評で、薬学部の鈴木杏奈さんは「自宅で複数の教科書を手元に置き、教科間のつながりを意識して学べたのがよかった」と話しました。一方、松戸歯学部の伊藤暢祐さんは「コロナ禍の影響で対面で行われる実習時間が短い場合もあり、技能が十分身に付いているのか不安だ」と述べました。それに対し、歯学部の松本邦史准教授は、「海外では、実際の手術の

ように手の感触を感じながら練習できるデバイスもある」と最新の知見を紹介し、VR・ARなどの技術導入の賛否について、2人に問いかけました。また、松本准教授は、医療人には人間性の育成も重要だと指摘した上で、「本学のスケールメリットを生かし、ビデオ会議システムなどで他の医歯薬系学部と連携すれば、医療面接の練習なども可能だ」と新たな取り組みへの意欲を語りました。

2 〈文系・理系・医歯薬系〉ミライに向けた全体ディスカッション

オンラインがもたらす“ミライの授業”の可能性。  
未来に向けたオンライン授業に対する提言

後半に行われた全体ディスカッションでは、各学系に共通して挙げられた問題を集約し、下記の4つのテーマについて、学生と教員が意見を交わしました。

1. シラバスの整備
2. 通信環境とICT 機器整備
3. 相互履修の可能性
4. 学修効果の高い授業デザイン

学生からは「オンライン特有のトラブルへの対応方法をシラバスに記載してほしい」という意見がありました。また、相互履修については、学部内での実施など現実的な方向性が教員から示された一方で、学生からは「広い知見を得るため他学部の授業も履修したい」という意見が挙がりました。

吉野准教授が考えるオンライン授業のミライ

学びを時間と空間の制約から解放する

多くの学生が4年次を就職活動に充てるため、3年次までに科目履修が集中するという現状に対して、「オンライン授業の導入は、学びの偏りを改善する契機になる」と吉野准教授は指摘。その上で「いつでもどこでも授業を受けられれば、時間割に縛られることなく履修できる。4年間に履修科目を分散できれば、1科目の重みが増し、より質の高い学修効果が期待できる」と述べました。



長谷部准教授が考えるオンライン授業のミライ

オンライン教材を活用した反転授業

この1年間で多くのオンデマンド教材を作成したという長谷部准教授は、「作成した教材を学生に事前に視聴してもらってから授業を行う反転授業に挑戦したい」と述べました。「事前学修で知識をインプットしておけば、今まで課題にしていた部分を、授業中に議論できる。一緒に考えることで、より深い問題に踏み込んでいきたい」と抱負を語りました。

松本准教授が考えるオンライン授業のミライ

柔軟力

松本准教授は、キーワードとして「柔軟力」を提示。本学の教育憲章である自主創造の構成要素「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」の3つの構成要素にも含まれる力とした上で、「教員は学生の意見を柔軟に取り入れ、より効果の高い授業づくりをしていくべきだ」と話しました。



開会挨拶

日本大学 FD 推進センター副センター長  
生産工学部 教授 藤井孝宜

藤井教授は、「今回課題に挙げられた評価基準のシラバスへの記載などについては、『Teaching Guide』第2章が参考になる。オンライン授業用のシラバス作成に活用してほしい」と述べました。



第5回日本大学オンライン  
授業に関する  
シンポジウム  
運営メンバー



開会挨拶/司会進行

全学 FD 委員会教育情報マネジメント  
ワーキンググループリーダー  
法学部 教授 臼井哲也



第2部ファシリテーター

全学 FD 委員会プログラム  
ワーキンググループリーダー  
松戸歯学部 教授 平山聡司

※本ニューズレターに記載した役職・資格・学年等は、令和3(2021)年2月現在のものです。

日本大学 FD NEWSLETTER 第18号

発行日: 令和3(2021)年3月1日[年2回発行]  
 発行者: 日本大学FD推進センター センター長 本田和也  
 〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 電話:03-5275-8314 FAX:03-5275-8315  
 e-mail:adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/  
 所管部署: 日本大学 本部 学務部学務課 企画・編集: 日本大学全学FD委員会教育情報マネジメントワーキンググループ

「日本大学 FD NEWSLETTER」に関する御意見や御感想などがありましたら、学務部学務課(adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp)へお寄せください。  
 本ニューズレターに掲載した文章、写真等の無断転載・複製を禁じます。 Copyright(C)Nihon University 2021 All Rights Reserved.

